

# 平成29年度 小森江西小学校学校便り

## こもりえにし

学力特集号

平成29年12月18日  
北九州市立小森江西学校  
校長 空閑 泰介

### 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	全国平均を上回っており、読むことに関して理解する力が付いてきていることがわかった。どの設問においても、無解答がなく、粘り強く問題に対して取り組むことができていた。
国語B	全国平均を上回っており、話すこと、聞くことについて、理解が深まっていることが分かった。記述の設問に関しては、正答率が全国平均を下回っており、題意にあった解答の方法や、自分の考えをまとめることについての取り組みの必要がある。
算数A	全国平均を上回っており、図形領域において、理解する力が付いてきていることが分かった。四則演算については、簡単な間違いをする傾向がある。落ち着いて確実に問題を解く必要があることが分かったので、見直し等確実にさせる必要がある。
算数B	得点率は全国平均とほぼ同程度であり、学習指導要領の領域である「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」においていずれも、同程度であった。記述式の問題において、無解答率が高い傾向がある。題意をとらえ、粘り強く解答する力を付ける必要がある。

#### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
○「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いませんか」の肯定的解答は83.3%であった。日々の学習の中で友達どうし説明したり、考えたことを書いたりする活動に意図的に取り組んできた成果が出つつある。しかし苦手意識を持っている児童もいることから、今後も児童の実態に合わせ、言葉で説明する活動や、書く活動を取り入れていく必要がある。 ○「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的解答は58.3%であった。宿題等の課題の取り組みについては定着しつつあるものの、自分で計画を立てて勉強している児童はまだ少ない。自分で計画を立て取り組むための手立て等が必要である。 ○「自分には、よいところがあると思いませんか」の肯定的解答は66.7%であった。これは、児童が良いところがあっても、それを自分自身が肯定的に捉えることができていない児童が多いことを意味している。学校では全教育活動において、児童の自己肯定感を高める評価を行い、道徳の授業においても自分の良さ目に向けて目をつけることができるように授業づくりを進めていく必要がある。 ○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」の肯定的回答は79.1%であった。経年比較をすると肯定的な回答の割合は増えつつある。また、地域に目を向けた、総合的な学習の取り組みを計画的、継続的に取り組んでいる成果が出つつある。社会で起こっている問題については新聞記事を学習に取り入れる等、さらに目を向けさせる必要がある。

#### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

##### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

○学習時間における「話し合う活動」と「書く活動」の時間の確保をする。(全校)
○自己肯定感を高めるために縦割り活動の見直しを含め児童相互が認め合えるような活動を行う。2学期は縦割り活動を中心にあいさつ運動を行う。また継続してびかびかボランティア活動や「笑顔のなる木」の取り組みを行う。(全校)さらには、道徳科等での自己肯定感を高めるための授業を計画的に実施する。(全校)
○社会で起きていることについて目をつけることができるように、新聞記事を用いてワークシートの要約をする取り組みを行う。(学年)

##### ② 家庭生活習慣等に関する取組

○月1回発行している、小西っ子生活頑張りカードを用いて学校と家庭での励ましを継続していく。(全校)
○学校通信、学級通信等において、家庭学習や生活習慣等の啓発を行う。(全校)(学級)

